県で実践しているわけで

コマツは石川県でスタ

働ける環境だと思えば、3 の平均は2・6人です。長く 性がいますが、この人たち

から、子どもを生むことが

加藤

\_\_\_ 郎

ジュリス・キャタリスト代表

肥料の三大要素の米国産 では初めてを導入した。 県と私の出身地である島根で、コマツの発祥地・石川

均である1・2人から1・5 北関東の工場では日本の平

人です。太平洋岸の大阪や

人です。石川に管理職の女

日本農業の未来を

創るために

ても、まず、隗より始めよ

社会構造の問題につ

港へ運ばなければならない出するために神戸港や横浜川県でモノをつくっても輸

日本農業の未来を創る2013

経済のなかで、

多くの企業

閉塞感のある日本

は新興国へ生産工場をシフ

(毎月10・20・30日3回発行)

産業もみんな疲弊しているで、地方の二次産業も一次

場を建設することにしま

この金沢港付近に新工

港を深くしてくれ、ここか

日本の多くの企業が地方の工場を閉鎖し、新 興国へシフトしている。そうしたなか、建設機

械の世界的メーカーであるコマツは、エンジン

などの基幹部品は国内工場で集中生産して世界 各地の工場に供給する体制を維持している。ま た東京本社をスリム化し、同社発祥の地である 石川県に本社機能の一部を移転している。坂根

次産業をみごとに復活させ

にドイツのコンサルタント

います。農業や林業など一県浜田市の林業を手伝って県浜田市の林業を手伝って

わけです」

外の人も入り広がってくるく市や県も農林関係部署以

くると森林組合だけではな

方の問題でもあると思いま 加藤 日本の社会のあり

だ〟という特色をめざして

も、これなら絶対にコマ

**長戦略が生まれるのでしょ** て、そこに中央集権型で成

は森林組合だけの話でした

には、

バイオマスの話が出て

坂根 浜田の場合、最初

た。<br />
そうすると<br />
地元が<br />
金沢

ら出荷できるようになりま

そして購買本部や教

考えて、

います

東京一

極集

は問題を三つ抱えていると

坂根

私はこの国は深刻

なら解決できるはずだと思

う中、私はこの二つが問題

港につながる金沢港があいました。石川県には釜山

くなる」と講演されたと聞をおき続け、地元回帰で強

どん都会に出て行ってしまし、石川県から若者がどん し、石川県から若者がごっしともありました。しか

NAは農業

若い人が魅力を感じられる地域の特色を

気象条件も異なり、産地間す。しかし、農業は地域で

権は全国一律になりがちで

「中央集権」型で、加藤・我が国のに

中央集

別藤 本質的な指摘だと

我が国の行政は

全国

律」は通用しない

競争のなかで生き抜かなけ気象条件も異なり、産地間

の弊害がありますね。 研究機関もすべて縦割りに

ればなりません。 はたし

は金沢大学で「地方に軸足

した。坂根会長

と良い

へ材が確保できない

川県企業のイメージが強い

東に工場を建てました。石ので太平洋岸の大阪と北関

いことです。三つめが、年戦を続け、価格が上がらなも多くのプレイヤーが消耗

育部など本社機能の一部を

しできるだけスリ

題です。つまりどんな業界 す。二つ目は産業構造の という社会構造の問題で

題ですが、私は社会構造の問今日の話は社会構造の問

けでこの国が立て直せると

も思っていません。

婚女性の子どもの数は0・

人ですが、石川では

1 9

数です。コマツの東京の既 の象徴的な数字が子どもの 立法・行政の構造問題です

る地方活性化を表す象徴す

これは国全体の課題であ

る例だと考えています。そ

ルが林業だと指摘されま

ロリダ州のリン鉱石鉱山

984年に全農はフ

づくりであり、製造業

オマスとして有効活

破せよですね。

と考えています。これは農

縦割りの弊害を打

なく、間伐材はコスト的に

にきています。

害はいろいろな分野で限界

坂 根

全国一律主義の弊

不の価格どうこうだけでは

合わなくても社会的にバ

らったところ、彼らは、材に浜田市の林業を見ても

うような選挙制度を含めた に一回、首相が変わるとい

てきました。

ム化し、『地方回帰』

を行っ

### 生産であり、 者の利害が強調される報道 農業というと農業 人が「やってみよう」と 思わなければ成長しない 食料生産は如 農業は食料 える社会ができないと、農田舎に残ってもいいなと思 業だって元気にはならなえる社会ができないと、農

人たちが "やってみよう" 坂根 農業に限らず私た と思わない限り絶対に成長 出すには、地方が元気で活 性化されていないとできま 的な課題です。安心、安全何にあるべきかは、全国民 で美味しい農畜産物を作り しません。そういう意味で 農業です。だから農業が廃すが、この特性のDNAは と、何かするときに非常に 農業です。みんなのチームさのベースにあるDNAは れたらこの国のモノづくり きめ細かく、というのが日 この国のモノづくりの強 クでやろうという面

でところがあります。 でところがあります。 あります。農村地帯とモノ多くは農村地帯の真ん中に も工場を持っていますが、す。コマツは米国、中国に そういう視点が大事です DNAも失われていきま 本のモノづくり

にどうやったら魅力を持っみようと思わない。若い人

農業をいま若い人がやって

てもらえるかが大事です。

しかし、

いきなり農業と

の大前提です。

て元気になり、そのなかにちのような二次産業も含め

次産業もあり、若い人が一元気になり、そのなかに

安心して長く働ける環境に

なれば子どもが増える

正弘同社会長は「地方に軸足をおき、地元回帰で強くなる。」さらに「農業だけではなくコマツのような製造業、大学などの研究機関、地方自治体

振り向かない。地方が私たいっても若い人はおそらく

## 坂根正弘 コマツ取締役会長 います。マスコミは産業界います。農業も同じだと思ツ商品。を作れと言われて を作りたがります。農業もと農業界の対立の[構図] ものができる。コマツの強 産業界との連携、



農業だけが地方にあっても 発展しない

業の強みは連携にあり、加藤 坂根会長は日本 坂根会長は日本企 連

合化すればするほど秀でた 携を取ることで、技術が複 坂根

が一体となって地域振興をはかり、若い人が魅力を感じる地方にならないと活性化はできない。」と常に語っている。そこで、日本農業の未 来を創るために、いま何が必要かを語り合った。 です。一方、 の大きな要素になっていま 大企業は鋳物をみなアウト 3Kの代表的な職場として マツには富山に鋳物工場が rラリアの鉱山ではコント ーシングしましたが、 次産業では コマツ商品の競争力 一方、チリやオ わば一次産業

地域社会 従って、ロールセ

業が生き残るには農業者だ さがあることが必要です

ているのは6次産業です に生きていますが、目指し けの力ではできません。 コマツは二次産業 す。そう といえます。

の域ではありません。

す。だから両方を一体で考の中にも兼業の方がいま石川の工場で働いている人 ためにも、そばに農業の強 業が地方で強さを発揮する

ベースが崩れてしまいまえないと、モノづくりの 性化は農業だけでもダメだ いう意味で地方活

次産業化だといえます。

ます。これはもう二次産業 ラックが無人で稼働してい 農業も、 次・二次・三次の6 コマツのダンプト 一次、二次、三

らない。私たちのような企だけが地方にあったって、だけが地方にあったって、 次まで一気通貫でいかない と付加価値が出てこないと コマツは世界で事

込んできているという大

ルセンターの指示に

したが、さすがに長続きせず ー年5月頃から落

がります。地域のなかで農

との連携が鍵で、そのこと

が地産地消の原点であり

大きな経済の動きは、

な経済の動きとは、分けて考

# めよ

坂根 農業は日本のモ 加藤 最後に日本の農 ジをお願いします。 ープへの

脈々とつながっているとも 緒 がそうやって、まず、隗よがそうやって、まず、隗よがそうやって、ます。みんながればいけません。 と思います。そのために思い、それで変わってくるの方が、生活が豊かだなと たちが、都会ではなく地方 うか。経団連でも私はそう り始めよ、で始めないと変 ていてもダメで、具体的に いう話をしています。 わらないのではないでしょ 国などに文句だけ

お忙しいなか貴重

坂根 昨年の夏から尖閣 国一か国で引っ張ってきまショック以降、世界経済を中 係がおかしくなったといる諸島の領土問題から日中間 般経済の話、つまりリーマン 問題もありますが、これと りはありません。 も中国から引き上げるつも

# 隗より始

つくりのベースのDNA く地方自治体も一緒になっ て考えていくことです。

宿命にあると思っていたと思いますが衰退している 究機関を含めて、 非常に強くあります。 るということは、モノづるということは、モノづられています。農業が衰退されています。 な二次産業や大学などの り産業もタイムラグはある しかし、農業が強くなる だから農業を衰退され 地方が私たちのよ

行って始めれば、JAと対にみえますが、いざ地方へ とJAは対立しているよう 立なんかしていられないは 中央で話をすると経済界

されていたという事実を 械が使われて日本に輸入 リン酸原料はコマツの機 知る人は少ないと思う。 コマツは経営理念の中核 学ぶべきことは学び、 農業関係者も産業界から もそも対立する構図自体 方の活性化をキー が作られた虚構である。 が代表する産業界と、

同社の副社長として出向 を設立した。私は同年に を買収し、全農燐鉱(株)

し、米国法人と合弁して

談を終えて

明らかにし、事実を徹底 視を掲げ、 して可視化する構造改革 をなす現場主義、 コスト構造を 顧客重 日本農業の未来を見つ

産業と称される農業も正 に取り組んできた。

とした農商工連携の中に

ラー製の独占市場だった 時の採掘機械はキャタピ 採掘事業に従事した。

が、故障が少なく廉価で

あるコマツ製のブルド

を米国の燐鉱石鉱

問い直す時代がきたと言 から対話と協調の視点で

(加藤一郎)

いる引いけれるといっ。国の中国についてのお考え 今後の世界の経済をどうみ 業を展開されていますが ておられますか。とくに隣

中国問題も中央政

府の動きだけではなく、

万政府の関係を重視する

ることで

企業にも協力的です。今後問題で必死ですから、日本自分のところの税収と雇用 地方政府です。地方政府はを行う上で関係が深いのは が中心ですが、企業が事業ら見ていると中央政府の話 るということです。日本か 回復しています。 つまり、年の9月に底を打って少り きたころから戻ってきてい 中国経済は尖閣問題が出て

て重要なことと思います。 我が国と似ている食文化が あり、両国の農業を相互理解 していくことが官民にとっ 加藤 隣国である中国は

### う特色をもち、大学や研究でもこの地域はこれだとい 戦略をもつことではないか です。そのために、私たち もって強くなっていくはずなってその地方の特色を 機関も一緒になって大きなう特色をもち、大学や研究 きたわけで、農業・農産品 るかです。みんなでどう始め なお話をありがとうござい 加藤

産業界と対立の構図